

令和5年度中予地方局予算事業成果表

1 基本事項

- (1) 事業名 パクチー周年安定生産体制確立事業費
 (2) 事業期間 令和4年度～令和6年度
 (3) 所 管 農林水産振興部 農業振興課 産地戦略推進室
 (4) 予算額 1,666千円

2 事業目的

収益性が高く市場で優位性が期待できるパクチーについて、全国有数の産地を目指し、栽培地を東温市から中予地域に拡大させ、周年安定生産体制を確立するとともに、知名度向上と需要拡大のため、主な出荷先である関西圏等でのPR活動に取り組む。

3 主な取組（何をしたか）

(1) パクチー安定生産対策の検討

- ・対策会議の開催（7月、3月）
新規就農者の確保や県内外でのPR活動について生産者、関係機関等による協議及び情報共有を図った。
- ・先進地事例調査の実施（12月）
岡山県の生産組織を訪問し、生産、販売、加工について情報収集を行い、対策会議内で情報を共有した。



図1 カルシウム散布実証ほ

(2) 安定生産技術の確立

- ・周年生産に向けた技術対策
栽培環境(土壌、水、日照)の異なる実証ほを設置し、それぞれの環境に応じた栽培管理を示すとともに、作型ごとに生育状況等のデータ収集等を行い、課題を抽出、検討した。
夏季のとう立ち対策と芯腐れ症に対するカルシウム剤散布の有効性を実証した。

(3) パクチー活用方法のPR

- ・関西圏でのPR（11月）
大阪市場の卸・仲卸業者を対象に、試食会や産地を紹介するパンフレット配布、商材の取扱い等に関するアンケート調査を実施した。
- ・首都圏でのPR（8月、9月、3月）
東京みずほ銀行社員食堂の愛媛フェアへパクチーを提供し、パクチーまぜそば等を販売(280食)した。



図2 大阪市場での試食会とPR活動

4 成果（何がどう変わったか）

- 栽培データの収集・分析により、標高別の作型管理を明らかにし、対策会議で周知した。
- データに基づいた管理の見直しにより、とう立ち前の適期収穫が可能となるとともに、カルシウム剤散布により芯腐れ症が軽減し、安定生産と周年供給に繋がった。
- 令和5年の生産者は17人(うち新規5人)、栽培面積130a(前年比102%)、生産量2,500kg(前年比100%)、販売額325万円(前年比120%)となった。
- 大阪市場でのPR活動により中予産パクチーの認知度が向上した。
- アンケートの調査結果では、品質面の評価が高いこと、夏季出荷の更なる増産と安定出荷の要望が多かったことから、次年度は夏季出荷に対応した生産を積極的に推進することを関係者で申し合わせた。